

ISPにおけるIPv4アドレス枯渇対応及び IPv6アドレス導入に関する広報について

(社)日本インターネットプロバイダー協会
副会長 立石 聡明

ユーザが混乱しないために

- ▶ IPv6導入によるユーザへのインパクトを最小にとどめる
- ▶ IPv4、IPv6それぞれ単独サービスの出現によるユーザビリティの低下を最小限に留める
- ▶ 想定されるサービスの制限や実際に制限されたサービスの情報集約及び広報
- ▶ ユーザだけではなく、関係する事業者にとっても必要だと思われる情報の提供
 - (ISPとしては回線事業者等からの情報提供も必要)

ユーザへの情報開示

- ▶ サービスのIPv6導入の有無
- ▶ IPv6対応サービスの提供時期
- ▶ ユーザがIPv6サービスを利用するための方法(or手続き)
- ▶ ユーザがIPv6サービスを利用するためにかかる費用など
- ▶ IPv4アドレス枯渇及びIPv6導入によって影響を受けるサービスの内容など
 - (ADSL、ダイヤルアップ、IP電話【050】、IPTV、NTT西日本のフレッツプレミアなど)

IPv4枯渇及びIPv6導入の広報に関する ガイドライン(案)

- ▶ 利用者保護のためにこれらの情報を、ISPが足並みをそろえて開示する必要があると思われる。(「導入」で「情報開示」の時期)
- ▶ IPv6導入等について、ISPが時期を合わせることは、さまざまな側面から難しい上に公正競争上問題があると思われる。

考えられる内容

- ▶ IPv4アドレス枯渇対応状況
- ▶ IPv6サービス導入の有無
 - ユーザの影響の範囲
- ▶ IPv6サービス導入の時期
- ▶ IPv4アドレス枯渇時の対応方法
- ▶ IPv6サービス利用にかかる費用等

IPv4アドレス枯渇対応及びIPv6アドレス導入に関するユーザサポートについて

- ▶ IPv4アドレス枯渇に伴うIPv6導入時には様々な混乱が予想される
 - 例えばIPv6シングルスタック時の障害対応
 - IPv4/IPv6デュアルスタック時の障害対応
 - その他、IPv4シングルスタックでは、あり得なかった障害など
- ▶ これらの障害対応などユーザサポートに関する情報を共有できないか、その可能性を探ることも必要ではないか。
 - 場合によってはこれらのサポートマニュアルの作成など
- ▶ OP25B連絡会の様な対応が必要だと思われる